ちんちん痒くて泌尿器科に行ったら高校の先輩が女医になってて、ちんちん見られて触られて勃起して射精しちゃった・・・

大学を卒業して5年、一人暮らしを始めて初めての夏が近づいた頃だった。ちんこがむずむずする。最初はただの汗だと思っていた。自分で洗っても、市販の薬を塗っても治らない。かゆみは日に日に強くなり、夜中に目が覚めるほどになってきた。

「これはさすがに病院だな……」

ネットで近所の泌尿器科を探し、思い切って予約を入れた。診察当日、待合室で名前を呼ばれるまで落ち着かなかった。カーテンを開けて診察室に入った瞬間、空気が止まった。

白衣を着た女性医師がカルテを見ながら顔を上げた。

「次の方、どうぞ。……え？　ハルト？」

そこにいたのは、高校の頃の部活の先輩、レイカさんだった。近所に住んでいて、小学生の頃からよく面倒を見てくれたお姉さん。高校卒業してからはほとんど会っていなかった。まさかこんな場所で再会するなんて。

「先輩……？　なんでここに……」

「私、ここの勤務医よ。医学部卒業して、今年から個々の配属になったの、偶然すぎるわね。カルテ見たら『かゆみ・陰部』って書いてあるけど……」

レイカさんは少し驚いた顔をしたが、すぐに医師の顔に戻った。俺は顔から火が出そうだった。

「あ、えっと……やっぱり帰ります。気まずいし……」

「待って。せっかく来たんだし、ちゃんと診てあげる。症状が悪化したら大変よ。座って」

彼女は椅子を指差し、俺を座らせた。カーテンを閉め、照明を少し調整する。

「じゃあ詳しく聞かせて。いつからかゆくなった？　どんな感じ？」

俺は視線を逸らしながら、かゆみが続いていること、洗いすぎてかえって赤くなったかもしれないことを話した。レイカさんは頷きながらメモを取り、淡々と質問を重ねた。

「じゃあ、実際に診させてもらうね。ベッドに仰向けになって。下半身は全部脱いで」

「……全部ですか？」

「当たり前でしょ、見ないとわからないんだから。」

仕方なく服を脱ぎ、ボクサーパンツを下ろした。